

平成 29 年度第 1 回国土技術政策総合研究所研究評価委員会 議事録

I 基軸となる研究活動と取り組み方針

(1. 国土交通行政のベースとなる研究開発、技術基準原案の作成)

- 「直面する政策動向だけに限らない研究活動」で中長期的な研究テーマについては、ロードマップやタイムスケジュールを示して頂きたい。

(2. 災害対応の支援、被災教訓を踏まえた減災策の高度化)

- 災害関係、技術移転はどこまで戦略的に取り組んでいるか。災害多発時代に、どう戦略的・重点的に取り組むか。アジアもすぐに日本と同じように高齢化するので、日本での研究成果は先進事例として、アジアにも共有していくべき。

(5. 国際研究活動)

- 国際研究活動が日本で閉じている印象。海外の研究機関と協定を結んで人材交流を行うなど、国際交流の推進を目指してほしい。
- 研究所として、学位の取得・輩出や、機動性を上げるためのヘッドハンティングによる研究推進といった取組を実施しなくてよいか。(特に国際的プレゼンスの向上のため)
- 多岐にわたる活動の中で、どこに人員や時間を重点的に配置するという考え方はないのか。
- やっていることを個々に主張してはいるが、国民目線で見れば、全体として誰が何をやっているのかがわかりづらい。無駄・重複・抜け落ちがあるのではないか。国の唯一の研究機関として、民間と連携して、どうソリューションを提供しているかが見えにくい。

II 研究をより良くするためのマネジメント

(1. 自律的・効果的・効率的な研究マネジメント体制)

- アジア交通学会を含め、共同研究のサポートなど、国際学会におけるリソースを活用していくことを視野に入れてはどうか。

(3. 次世代の研究を担う人材の育成)

- 毎年どのくらいの数の新しい研究者が入ってくるのか。
- 自発的な勉強会はよい取り組み。つくばの研究機関の交流の場を持つことが重要。
- 研究所として、新しいものを生み出すため、若手研究者の育成のビジョンを持つとよい。そのためにも、若手に過去の蓄積・経験・歴史について理解させると共に、視野を広く持たせるような仕組みも工夫してほしい。
- 国総研といえばこれという強みをアピールできるとよい。